

編集後記

編集後記の担当をお引き受けしたのはよいのですが、なかなか書けません。そこで、編集管理の事務の方に「明日は1日出張なので、車中で考えます」とお伝えし、出張地に赴くことになりました。今日は、6月29日の金曜日です。起床後、我が家で新聞を読んでいると、3面にあった小さな記事が目に残りました。内容は、今国会で成立した「障害者優先調達推進法」に伴い、国から障害者事業所への発注を増すために、随意契約の範囲を拡大するというものです。その結果、競争力の弱い障害者事業所でも受注が安定し、雇用機会の確保や給与上昇が期待できると解説しています。近頃の内政においては、よいニュースがあまり聞かれませんでした。この記事で気分よく出かけることができました。

今日の出張先は、長崎県諫早市にある実習病院です。道中、筆者は、電車の車窓から眺める風景を楽しみます。電車といっても、新幹線ではいささかスピードが速すぎます。今回の車窓は、長崎本線の特急「かもめ」で、博多から諫早までです。広大な佐賀平野に広がる田植えされたばかりの田園、有明湾の干潟と雄大な有明海、きれいに整備された吉野ヶ里遺跡など、多くの景観を楽しみました。また、早くもプール開きして大はしゃぎで泳ぐ小学生、「夢の里」という名前の老人保健施設など、日常的な風景にも心が和みました。どれもこれも、安寧で平和でした。筆者は、幸せだなと感じました。

帰路、新幹線の電光掲示板のニュース速報で、少し気がかりな記事を見ました。それは、「北海道、北陸、九州長崎ルートの整備新幹線3区間の着工が認可。総事業費は計3兆400億円」というものです。消費税増税法案が衆議院本会議で通過したばかりです。筆者は、東日本大震災の復興や社会保障の改革が叫ばれる中、この時期のこの認可に疑問を感じました。同時に、将来はかもめの車窓が楽しめなくなるのだという感慨も起こりました。言うまでもなく、新幹線の整備は、地域活性化を図るために行われます。その反面、整備の結果、在来線が不便になったり廃線になったりで、地域住民が苦勞することもあるようです。これでは福祉とは言えません。

福祉とは、幸せをつかむための基盤であって、快い日常生活の状況、いわば暮しむきであり、そしてその努力過程であると言えます。本誌は、医療福祉を追求するための学術誌です。今回も、多くの論文が寄せられました。これからも、会員みなで本誌を盛り上げ、社会の福祉に寄与していけたらよいと願ってやみません。ありがとうございました。

編集委員 福意武史

川崎医療福祉学会誌

平成24年7月25日発行

発行者 梶谷文彦

発行所 川崎医療福祉学会
〒701-0193 倉敷市松島288

印刷者 山川昌夫

印刷所 研精堂印刷株式会社
〒700-0034 岡山市北区高柳東町10-30

連絡先 川崎医療福祉大学 中央教員秘書室
〒701-0193 倉敷市松島288

TEL 086-462-1111 内線54095

086-464-1010 (直通)

FAX 086-463-3508